

# 経済・金融 フラッシュ

## 中国経済:7/1 発表の製造業PMI ～新規受注改善を主因に4ヵ月連続で上昇

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

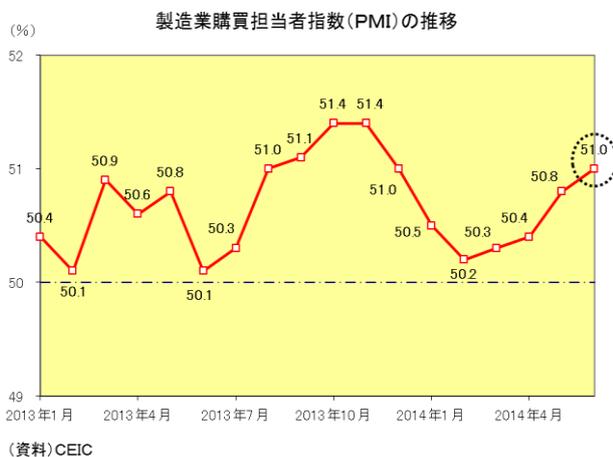
- 6月の製造業購買担当者指数（PMI、季節調整済）は51.0%と前月と比べて0.2%ポイント上昇、2月を底に4ヵ月連続で改善、景気回復が続いていることを示す結果となった。
- 今回改善した主因は新規受注で、昨年夏場に経済成長率が7%後半に上昇した時の水準まで回復、新規受注増は生産増にも結びつき易いだけに、景気下ぶれ懸念を和らげる好材料となった。
- 但し、生産経営活動予想指数（今後3ヵ月以内の生産経営活動に対する楽観度を示す）は3ヵ月連続で大幅悪化しており、先行きに対する楽観度には陰りが見られる。

### 【6月の総合指数は4ヵ月連続で改善】

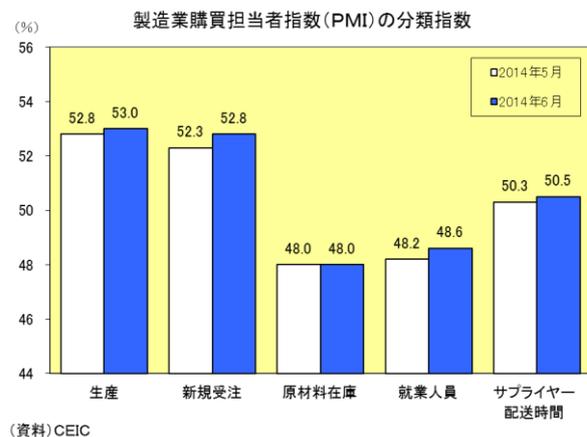
7月1日（火）、中国の国家統計局サービス業調査センターと物流購買連合会は2014年6月の製造業購買担当者指数（PMI、季節調整済）を発表した。総合指数は51.0%と拡張・収縮の分岐点となる50%を21ヵ月連続で上回るとともに、前月と比べて0.2%ポイント上昇、2月の50.2%をボトムに4ヵ月連続で改善、景気回復が続いていることを示す結果となった（図表-1）。

総合指数を構成する5つの分類指数を見ると、生産指数は前月より0.2%ポイントの改善、新規受注指数は0.5%ポイントの改善、就業人員指数は0.4%ポイントの改善となる一方、原材料在庫指数は横ばい、サプライヤー配送時間指数（逆指数）は小幅ながらも悪化している（図表-2）。寄与度を計算して見ると、加重割合が3割と大きい新規受注指数の改善だけで、総合指数を0.15%ポイント押し上げている。

（図表-1）



（図表-2）



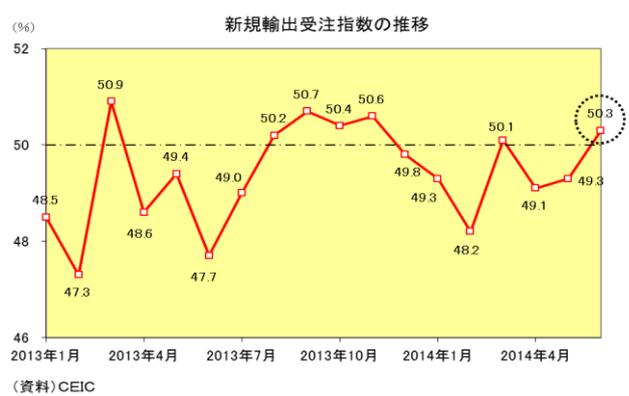
## 【 新規受注は昨年夏の水準まで回復 】

新規受注指数のここ数ヵ月の動きを見ると（図表-3）、2月（50.5%）をボトムに力強く改善してきており、今回の52.8%は昨年9月に並ぶ水準である。昨年夏は経済成長率が7%後半に上昇した時期であり、新規受注増は生産増に結びつき易いという面もあることから、景気下ぶれ懸念を和らげる好材料である。また、輸出の先行指標として注目される新規輸出受注指数も50.3%と前月と比べて1.0%ポイント改善し、3ヵ月ぶりに50%を上回ってきた。（図表-4）。

（図表-3）



（図表-4）



## 【 その他の留意点 】

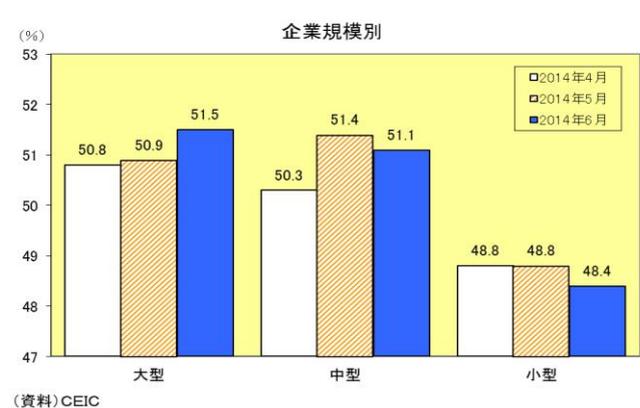
一方、今後3ヵ月以内の生産経営活動に対する楽観度を示す生産経営活動予想指数は54.8%と前月より1.4%ポイント悪化、これで3ヵ月連続の大幅悪化となった。依然として拡張・収縮の分岐点となる50%を上回る水準にあるとはいえ、先行きに対する楽観度には陰りが見られる（図表-5）。

なお、企業規模別に見ると、大型企業が大きく改善する一方、中小型企业は悪化した（図表-6）。最近中国では、金融当局が銀行の預金準備率や預貸率を緩和方向へ微調整しているが、これは苦境が続く中小零細企業を支援するためと見られる。

（図表-5）



（図表-6）



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。